

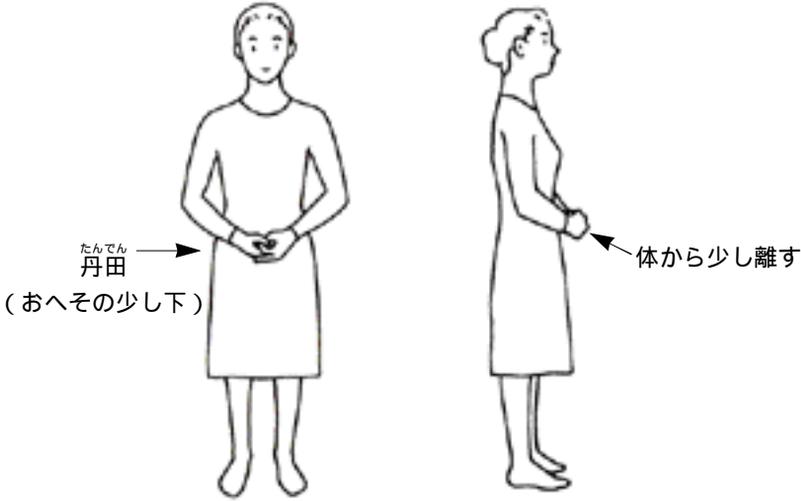
われそくかみなり
我即神也の印

1

如来印にょらいいんを組み、「我即神也」と宣言をする

正面

側面

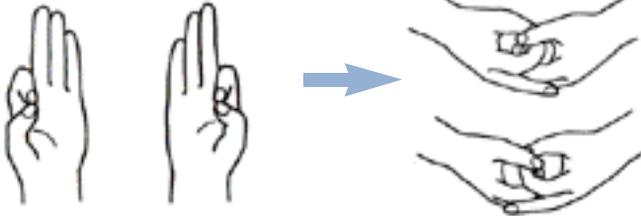


如来印の組み方

天と地、 \oplus と \ominus の交流
大調和の意

親指と人差し指で輪をつくり

右手と左手の輪を結びます



手のひらは上に向ける
手のひらは左右どちらが
上になってもよい

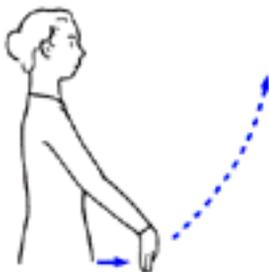
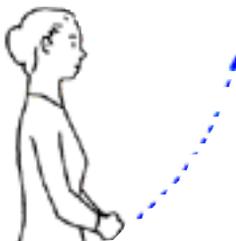
2

如来印を丹田の位置からやや上に持ち上げ、「ウ-」と言いながら、右手と左手の輪を結んだまま、他の指をのばしながら目の高さを持つてくる

発声
ウ

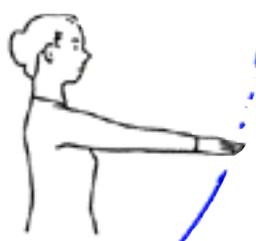
正面

側面



手前から見た拡大図

中指の先端はつける



宇宙神に我即神也と刻印すると同時に、宇宙神の無限なるエネルギーを受ける
(これから、我即神也の印を組むことによって神を顕現させてゆきます、の意)

息

手は十分にのばし、指の間から前が見えるようにする

3

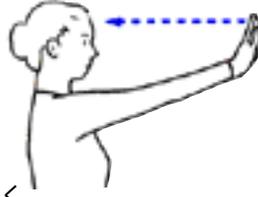
「ウ-」と言いながら、腕を軽くまげ手前に引きながら、右手と左手の輪を離し、右手を手前にして重ね、額に一度つけてから少し離す

発声

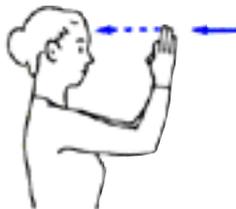
ウ

正面

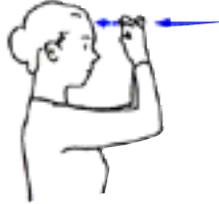
側面



手前にひく



両手の輪を離し右手を手前にする



手前から見た拡大図

額につける



宇宙神から受けた無限なるエネルギーを自らのチャクラ(額)に刻印する
(刻印することによって、血液の中に宇宙神の無限なるエネルギーが入りこみ、その血液が全身を駆けめぐり、自らの肉体の生命エネルギーが活発化する)

手は額からこぶし一つぐらい離す

息

4

「ワ-」と言いながら、右手を体の前で左回りにまわし、額の前に戻す(自分から見て時計まわりの反対)

発声

ワ



息

正面



側面



手は額からこぶし一つぐらい離す



手のひらは内側に向けるが、～にかけて内側に向けにくいところは、自然にまわす



円が極端にゆがまないように

丹田の前を通る

本来の私は、天なる神と全く一つのものである。宇宙神と共に在る。真理そのものである(円、弧を描くことによって、大調和そのものであることを示している。決して、天なる神とかけ離れたものではなく、宇宙大生命の中にとけこんでいるものである、の意)



5

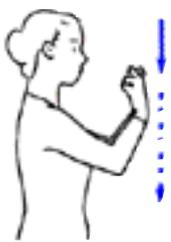
「ウ - 」と言いながら、額の前の手を体にとって下におろしながら、途中で右手と左手の輪をつなぎ、丹田の位置から前に突き出し再び戻す

発声

ウ

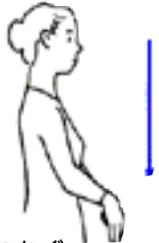
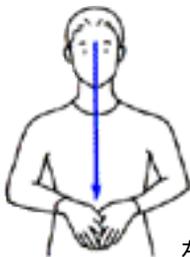
正面

側面



(地上に降ろす)

(本来の私が地上に降りてくる)



左右の輪をつなく

地上の人類及び生きとし生けるものいっさいに我即神也を啓示する



次頁に続く

指先を離す

手前からみた拡大図

前頁より

正面

側面



手は丹田の前方に十分のばす
(上にあげすぎない)

指先は少し上にそらす



左手が手前になるように引き戻す



両手の輪を離し、左手
指先を上にする

息

手のひらは上に向ける



拡大図

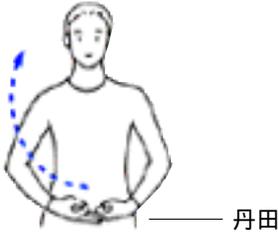
6

「レ-」と言いながら、左手を体の前で左回りにまわし、丹田の前で右手と左手の指先をつける(自分から見て時計まわりの反対)

発声

レ

正面



(肉体は三次元世界にあっても)
私は、地上にあっても天なる神と全く一つのものである。無限の生命そのものであり、無限に光り輝いているものである



~ にかけて内側に向けにくいところは自然にまわす
円が極端にゆがまないように



手のひらは上に向ける



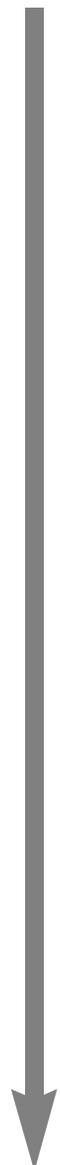
息

7

「ソ - 」と言いながら、右手を左斜め前方へ差し出し、戻す
(上半身を手の方向へ向ける)

発声

ソ



息

正面

上から



手のひらは上に向ける

神の創造したもうた
すべていっさいの水、
空気、大地、海、山、
河、岩、太陽・・・
等、大自然のすべて
は、右の手のひらの中
につつまこまれ、
私と全く一つに結ば
れているのである



視線は指先の方向、はるか彼方^{かなた}



指先は額の
高さ



腕は十分にのばす



戻す



側面



拡大図

右手は脇をしめて腰につけ、手のひらが
前から見えるように

8

「ク-」と言いながら、左手を右斜め前方へ差し出し、戻す
(上半身を手の方向へ向ける)

発声

ク

正面

上から



神の創造したもうたす
べていっさいの動物、
植物・・・等、生きと
し生けるものすべて
は、左の手のひらの中
につつまこまれ、私と
全く一つに結ばれてい
るのである

目線は指先の方向、はるか彼方



側面



両手は脇をしめて腰につけ、手のひらが
前から見えるように

拡大図

息

9

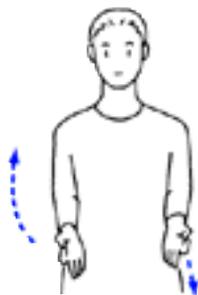
「カ - 」と言いながら、右手の手のひらを正面に向け、左手はひじから先を水平に前に伸ばす

発声

力

正面

左側面



私はこの地上にあって
神の無限なる愛、無限
なる光を放ちつけて
いるのである
(左の手のひらの中につ
つみこまれている動物、
植物・・・等、生きと
し生けるものすべてに
対しての感謝)



神の無限なる愛を放ち
つけている(右手)

無限なる光
無限なる叡智
無限なる生命
無限なる幸せ
無限なる歓喜
無限なる平和

を与えつけている
のである



両手の指先をのばす

神の創造したもうた
すべていっさいの動
物、植物・・・等、
生きとし生けるもの
すべて(左手)

息

「ミ - 」と言いながら、左手の手のひらを正面に向け、右手はひじから先を水平に伸ばす。次に左手をおろし、両手の指先を体の前でつける

発声



正面

側面



私はこの地上にあって、
神の無限なる真理、無
限なる感謝を捧げ尽く
しているのである
(右の手のひらの中につ
つみこまれている水、
空気、大地、海、山、
河、岩、太陽・・・等、
大自然のすべてに対し
ての感謝)



両手の指先をのばす



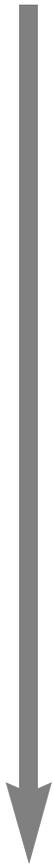
神の無限なる感謝を
捧げ尽くしている
(左手)

神の創造したもうた
すべていっさいの水、
空気、大地、海、山、
河、岩、太陽・・・
等、大自然のすべて
(右手)

ここでは息を吸わない

次頁に続く

前頁より



息

正面

側面

左手をおろす



指先をつける



拡大図

「ナ-」と言いながら、両手をすくい上げるようにして、顔の前で両手の輪をつなぎ合掌をする

発声
ナ

正面

側面



すくい上げるように



天なる神に全感謝を捧げるのである(合掌)



左右の輪をつなぎ合掌する

手前から見た拡大図



左右の親指のどちらが手前になってもよい

手のひらはなるべくつける

12

「リ - 」と言いながら、合掌を解きながら、両手を腰の位置までおろす

発声

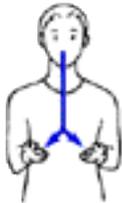
リ

正面

側面



左右の輪
を離す



手のひらが前から
見えるように

息

息を止めたまま、左手はそのまま、右手の人差し指を無声の気合いとともにまっすぐ下につきさし、つづいてU字型に上にあげ、額の前で止める

正面

側面

無声



神から離れた誤った
想念、行為から苦悩
や病氣、悲劇が生じ
るのである



指先は身体の真ん中から垂直に下に向ける
右手の手のひらは左側に向ける



拡大図



すべていっさいの自
分にまつわる過去の
誤った想念、行為は
赦されたのであり、
消え去ったのである

無声の気合とともに下に
向けてつきさす

次頁に続く

正面

側面



下につきさした後、気を抜かず、人差し指の指先をU字型に下から上に向きを変え、気を込めながら指を上げてゆく



胸の位置から再び無声の気合をかける速度をはやめ、額の前で止める

額の前で止める



そして天の光かんげんに還元されたのである

ここでは息はしない

14

気を抜かずゆっくり右手をおろし、如来印を組んでから息をする



息